

良い市川市の作り方、後編

前編の vol.64 で「変な話になります、いろいろな場面・事で、勝算あったんですか？」と聞かれることがあります。でも、あるはずありません。ただ、人生これで終わり！という時に、やりきっていれば涙は出ないと思います。」と述べました。続きになります。政治家人生5年半を振り返って見ても、あれやっておけば、伝えておけば良かったな…という時に泣かされます。決して成功ばかりしてきている訳ではないです。でも、やりきったの失敗は「実力不足」で終わると思います。納得できます。自分の考えで良いと思っているから、とにかくドンドン、ドンドン、周りから見たら変かも知れないですけど、やってこれたのだと思います。失敗しても満足です。私やったよなあ…これでいーやと。思い残すことなく、自分の一生をかけてやる事に没頭する。それでも、街が変わるにはすごく時間がかかります。でも、多くの人がチャレンジしていく事が、やっぱり、街を変え、市川市を変えていくと信じています。それが市川市を魅力ある街にします。みんなが誰かの後をついていくと言っているようでは、良い街にならないです。みんなそれぞれの想いで突っ走って、それが社会のため、という事であれば分散しないで、まっすぐ行くのです。それが私たちに求められている生き方です。これが私が実現したい市川市です。：前回のものも含め、少し言い過ぎでしょうか。でも、「激しく世の中に突きつけていくものが無ければ、議員をやっている意味がない。」とすら感じています。市議会や市議会議員という狭い世界での成功・失敗に一喜一憂して、気づかないうちに易きに流されているのではないか：現状が困難だからこそ、その先にみんなの幸せがあるのではないか：試行錯誤の毎日です。今回は皆さんへの提言というより、自分への戒めの色が濃いです。そして、今回、大上段に構えた難しいテーマであると自認しています。でも、やはり言いたい事はひとつです。みなさんで「良い市川市の作り方」を思い描き、話し合ってみて下さい。個々人の想いが集まっていけば、良い社会、街が形成されていくと信じています。今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ！

平成29年1月19日

増田好秀